令和4年度 第1回大阪市障がい者施策推進協議会障がい者計画策定・推進部会
議事録

日 時 : 令和4年8月17日(水) 午後2時から午後4時まで
会 場 : 大阪市役所 屋上階P1 共通会議室
出席委員 : 三田(優) 部会長、井上副部会長、浅井委員(Web)、芦田委員、大野委員、
小澤委員、京谷委員(Web)、倉田委員(Web)、酒井(京) 委員、酒井(大)
委員(Web)、三田(康) 委員、大東委員(Web)、西委員、長谷川委員、福田
委員、星沢委員、溝上委員、宮川委員(Web)、山内委員、山梨委員

司会(障がい福祉課 村田) <開会>
八木障がい者福祉課長 <あいさつ>
司会(障がい福祉課 村田) <出席者紹介、資料説明等>

三田(優) 部会長

・議題1 令和4年度大阪市障がい者等基礎調査について、事務局から説明をお願いします。

塩谷障がい福祉課長代理

<議題1 資料1・資料2-1~9 説明>

三田(優) 部会長

・ご質問、ご意見いかがでしょうか。

倉田委員

- ・本人用調査票の精神の予定数が4,300人と記載されていますが、その中に入院されている方が含まれるのでしょうか。
- ・また、調査対象に選ばれた方への事前周知はどうされるのでしょうか。

塩谷障がい福祉課長代理

- ・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と自立支援医療の受給を受けられている方の中から区ごとの偏りが無い様に対象者を無作為に抽出します。
- ・どういう根拠で調査対象に選ばれたということは特に記載はしていません。
- ・手帳を2つ以上お持ちの方への重複の対応としましては、身体障がい者手帳の対象者を抽出し、次に療育手帳の対象者を抽出する際に、既に抽出した方を除いて抽出しますので、調査票が重複して届くことが無いようしております。

三田（優） 部会長

- ・入院している方は対象になるのかについてはいかがでしょうか。

塩谷障がい福祉課長代理

- ・精神障がい者保健福祉手帳と自立支援医療を受けておられる方の住所に送付しますので、入院されている場合はご自宅に届くことになります。

倉田委員

- ・入院先には届かず自宅に届く可能性があるということですね。
- ・調査票を急に送っても何だこれとなり、回答されない方もおられると思われるため、市で十分に周知を行ってから調査を行った方が効果的であると考えますがいかがでしょうか。

塩谷障がい福祉課長代理

- ・調査のスケジュールとしましては、9月に開催予定の大阪市障がい者施策推進協議会に諮った後、11月頃に民生委員・児童委員の会長会、基幹相談支援センターや各団体へ情報提供をさせていただく予定としております。
- ・また、市民向けの周知につきましては、12月上旬に発行される広報において周知を行っていく予定としております。

三田（優） 部会長

- ・これまでも同様の周知を行ってきたところで、ここに家族会の大野委員と、倉田委員もおられますことから、周知のご協力もお願いしたいと思います。

倉田委員

- ・前回の全体と精神の回答率はどの程度だったのでしょうか。

塩谷障がい福祉課長代理

- ・令和元年度の本人用調査票の回答率は36.8%、平成28年度は37.5%、平成25年度は39.8%となっており、3から4割の回答率となっております。
- ・精神の方のみの回答率につきましては、手元に資料が無いためお答えができません。

倉田委員

- ・精神の方のみで構いませんので、調査を行った結果により変わったことや良くなったことの具体例を教えてくださいたいと思います。

八木障がい福祉課長

- ・基礎調査の結果で何が明確に変わったかということをお示しするものはないかもしれませんが、各団体からの声や国の動きにより各制度を改善していく中で、市としてもそういう実態があるということを示しながら予算確保などに努めているところですので、市としてもこういう実態があることを示すための資料となると考えています。

倉田委員

- ・今回の調査は、新型コロナウイルス感染症の設問を追加されたということですが、設問は毎回ブラッシュアップされているのでしょうか。
- ・調査の説明に20分を要していることから、レジュメなどを準備いただければ皆さん事前に読んでいただけるとおもいますので、時間が短縮できるのではないかと思います。

八木障がい福祉課長

- ・調査を実施するにあたり、毎回計画部会にてご議論いただいております、念入りなご議論いただくということで、部会にワーキングを設置し、一部の委員にお集まりいただき回数を重ね、調査内容を決定しています。
- ・調査ですので継続性も必要となりますので、全くもって毎回違う内容にするという訳にもいきませんので、ベースは変えないものの、今回はコロナのことやヤングケアラーのこと、情報機器のことなどを入れたりしております。例えば、前回か前々回は障がい者スポーツの推進の観点からどれくらいの方がスポーツをされているのかがわかるような設問が入ったり、差別解消法が制定された時には差別解消に関わる設問を追加するなどしております。結果的に調査項目が増える一方ですので、次回に向けては、もう少し抜本的なご議論もいただきながらと考えています。

三田（優）部会長

- ・基本的なところは、3年ごとに同じ項目で変化を見ながら、今回はワーキング会議でコロナのことを明らかにしないでどうするという設問を追加するなど調査票を検討してきました。

倉田委員

- ・ワーキング会議の委員に参加するためにはどうしたら良いのでしょうか。

三田（優）部会長

- ・承っております。

大野委員

- ・前回か前々回の回収率を見た記憶があり、精神の回収率が一番悪く、20%台という印象があり、これは何故かということがずっと頭にありましたが、倉田委員がおっしゃられたように精神障がい者の場合は入院しているという特殊な状況があります。
- ・入院者は特にコロナの影響で面会できない状況であり、調査票を手渡せば良いのですが、入院患者に調査票が手渡された場合には、例えば1週間を目途になど、回収の協力を病院協会へ依頼することも必要ではないかと思います。
- ・広報にだけ掲載し、本人の自己責任で回収するという方法は、入院していることが多い精神障がい者にとっては厳しいと思います。
- ・市から家族会あてに調査への協力依頼書をいただければ、大家連としても11月に間に合うのであれば広報或いは様々な催しの中で、本調査の周知を行うことができますので、回収率の向上に協力ができるのではないかと思います。

八木障がい福祉課長

- ・各団体に周知をお願いさせていただきますので、こういう調査があるので積極的に回答して下さいということを広報していただければ助かります。

大野委員

- ・家族会は正式な文書を大阪市からいただくのではなく、今日私がこう聞いている範囲で、広報に載せるってことですね。
- ・精神病院協会には、大阪市から公的に手帳を所持されている方にこういう調査票が届くので、回収について病棟での協力をというお願いを是非行っていただきたいと思います。

八木障がい福祉課長

- ・家族会の方には、文章でお渡しさせていただき予定にしておりますし、いただきましたご意見を踏まえ、どういう形で病院にアプローチすれば良いのかなど検討させていただきます。

芦田委員

- ・手帳所持者は必ず受診されているので、病院に加えクリニック、地元の診療所で受診されている方も多いため、大精協（（一社）大阪精神科病院協会）だけではなく、大精診（（公社）大阪精神科診療所協会）にも周知していただければと思いました。

京谷委員

- ・クリニックに掲示するチラシなどを用意いただければ、会員に配布し、各クリニックに掲示してもらうことにより回収率が上がるのではないかと思います。

八木障がい福祉課長

- ・前向きに検討させていただきます。

三田（優） 部会長

- ・ローラー作戦ではありませんが回収率を上げていく、しかしながら一方で回答された方に何のメリットがあるのかと問われることも想定されるため、分析をきっちりを行い、色々なところに反映させていく必要があります。

芦田委員

- ・毎回お聞きしているとは思いますが、皆さんにも知っていただきたいという想いがあり、質問させていただきます。
- ・資料 1、3 頁の障がい者（児）施設入所者用ですが、この施設が約 200 施設と書かれていますが、これは措置の時代も含めて全国津々浦々に送付されていると思いますが、何都道府県位まで増えているのか教えてください。

八木障がい福祉課長

- ・今お答えできる資料はありませんが、おっしゃられますように、市内に 700 人位入所されており、それ以外は大阪市外ということで、他府県というのも結構な数があると思われます。

芦田委員

- ・おそらく、北は北海道から南は沖縄までというところが、ざっくりとした回答ではないかと思いますがいかがでしょうか。

八木障がい福祉課長

- ・そうなるかと思えます。

三田（優） 部会長

- ・入院や市外におられる方の声がなかなか反映されないということも考察の中で想定しながら、何か書ければ良いかと思えます。
- ・では、議題 2 大阪市障がい者支援計画・第 6 期障がい福祉計画・第 2 期障がい児福祉計画 令和 4 年度大阪市障がい者等基礎調査について、事務局から説明をお願いします。

塩谷障がい福祉課長代理

< 議題 1 資料 3 ・資料 3 別紙 ・資料 4 ～ 5 説明 >

三田（優） 部会長

- ・ご質問、ご意見いかがでしょうか。

山内委員

- ・資料3別紙に記載のある「施策の方向性」の趣旨としては、市が取組を進める意思表示の
ようなものになるのでしょうか。
- ・具体的には、一つの例として、32頁の「居住系サービス等の充実」で、「経過措置とされ
ているグループホームにおける個人単位でのホームヘルプサービス利用について恒久的
な制度とすること」等の記載がありますが、「施策の方向性」とは、市の意志として方向
性を持たれているということでしょうか。

八木障がい福祉課長

- ・資料の説明が不十分で申し訳ないです。資料3別紙の「施策の方向性」につきましては、
大阪市障がい者支援計画に記載している施策の方向性を記載しております。
- ・その施策の方向性を踏まえながら、次の欄に具体的な取組名称があり、令和3年・4年・
5年の取組、3年間通じた指標が細い長い欄に記載しており、今回は令和3年度の具体的
な取組として評価や課題、今後の方向性を記載しているというものになります。

倉田委員

- ・資料3の4頁、第5章、「住みよい環境づくりのために」の1生活環境の部分になりますが、
発達障がいの方の支援を行っている合同会社Ledesonの社長さんと知り合いで、ユニ
バーサルデザインについての協議をしたことがあり、その際に話題になったのが、大阪
市内は結構立体的で地上階と地下街、ビルの階上が立体的にできていることから、エレ
ベーターの設置について熟知していなければ迷うというような意見があります。ユニバ
ーサルデザインの考え方で言いますと、スマホでQRコードが読めますが、それらを活用
したスマホでの音声案内を行ってはどうかという意見があり、細かく説明しますと、
分岐点となるキーポイントにQRコードが設置してあり、そのQRコードを読み込むこと
により、音声案内や文字情報で目的地まで案内してくれるような取組があればとの
提案がありました。
- ・私は、精神的には障がい者、身体的には健常者ですが、地上階と地下街の行き来
について、かなり道を熟知していなければ難しい状況があり、特に梅田は地下街が
発達していますので、障がいのある方が地下街を自由に行き来できる状態では
ないのかと思います。
- ・梅田には立体的な歩道橋がありますが、その歩道橋を利用しなければ信号や横
断歩道がかなり遠い場所にあり、健常者でないと連携しづらい状況になっ
ていると思います。
- ・また、JR大阪駅から阪急百貨店の入口に繋がる交差点についても、目の見える
方にとつ

ては、あと何秒で信号が変わることがわかりますが、目の見えない方は音声の導きが無い
ため、スマホで出発点から目的地まで案内してくれるようなサービスがあればありがた
いと思いました。

三田（優） 部会長

- ・ご意見をいただきましたが、この場でスマホを活用したサービスの回答を市からもらうと
いうのは違うかと思っており、ここに記載されていることについて、こういう表現の方が
良いのではないか等のご意見をいただけるとありがたいと思います。

大野委員

- ・2点ご質問があり、まず1点目は、資料3の3頁、2入院中の精神障がいのある人の地域
移行につきまして、かねてからピアサポーターが動き始めているということを非常に評
価されておられますが、この文章からしますと、ピアサポーターの働きや活躍により、地
域移行が進むという主旨に思います。ピアサポーターの方が活発に動くことによって、地
域移行が進むと思われているのでしょうか。
- ・地域で暮らすことに魅力があると誘われたとしても、退院する当事者にとっては一体どこ
に住むのか、病院で構築した人間関係を地域で構築する、地域の中に人間関係を構築でき
るような日中活動の場がここにあるというような案内をきっちりピアサポーターの方が
できるかどうか、住まいと地域活動に関する保証・責任の主体はどこにあるのかについ
てお答えいただきたいと思います。
- ・2点目は、資料4、3頁の2になりますが、「6月末の精神病床1年以上の長期入院者患
者数 1,680 人」に関する目標設定があるのに、実績が国から出ないとのことですが、何
故、国から出ないのかを大阪市は聞かれていますでしょうか。
- ・国が答えないのは何故かということを知りたいうえで、国が答えてくれないから待っている
のではなく、大阪市は今後どう対応されるのかについてお尋ねしたいと思います。

柏田こころの健康センター精神保健医療担当課長代理

- ・まず1点目の地域移行のピアサポーターの活用の部分ですが、当然ながらピアサポーター
の方に入っていただくことにより、地域に戻りやすいということはあろうかとは思いま
すが、大野委員がおっしゃられますようにピアサポーターの方がついていけば当然に地
域移行が進むのではなく、それ以外の条件整備などが必要になってきますので、それはピ
アサポーターの方だけが担っていく訳ではなく、支援者の方や行政も当然に関係してい
きます。一体となって支援を行い、できる限り地域にお戻りにいただける方はお戻りいた
だくよう引き続き取り組んでいきたいと考えています。
- ・続いて、2点目の令和3年度の実績が出ていない件につきましては、国及び大阪府にも確
認させていただき、例えばこの1番の「令和5年度末の精神病床から退院後1年以内の地

域における平均生活日数 316 日以上」は国が基本指針として示している目標値になりますが、本市もそれに倣い目標設定をしております。実績を出すには、かなり大規模な調査等をしていかなければならないと聞いており、令和 5 年度末の状況を目標設定としているということもありますので、国としては令和 5 年度末を迎えた後に調査をするということ、毎年度調査し状況を把握することは今のところ考えていない、ということを確認させていただいたところです。

大野委員

- ・ピアサポーターの件ですが、でき得る限り退院できる方は退院いただくということであれば、退院ということが、市の施策として設定している訳ではなく、気が向いたらどうぞ退院して下さいということなのでしょうか。
- ・大阪市内の患者は市外の病院にたくさん入院されている訳ですが、病院の中で長年築いた人間関係を切って地域に帰って来る訳ですから、その時にピアサポーターの方がきっちりある程度ここにはこういうサービスがあるよというふうなことも、答えられるような誘い方をしないと、サポーターの方が誘い、気が向いた人が退院すれば良いみたいに聞こえましたので、それでは、サポーターの方も気の毒です。
- ・例えば、せつかく誘ったとしても、誘ったにもかかわらず住まいはどこにあるかわからず、誰が住まいを探すのかなど、行政が責任主体とならないのでしょうか。
- ・私たちの家族会は経験もしていますが、見学ということで就労支援 B 型事業所に誘ったとしても、今は新型コロナウイルス感染症の影響で人数を増やすことができないと、新規は断われ、地域の日中活動の場が使えないという状況を大阪市はご存知でしょうか。
- ・こういう状況の中で、ピアサポーターの活動だけ活発にするというのは、騙しているように思います。
- ・次に、資料 4 につきましては、何故、国がこれを出そうとしないのかということをもう少し具体的に追求していただけないでしょうか。

柏田こころの健康センター精神保健医療担当課長代理

- ・国には、一旦は確認させていただきましたが、改めて年度ごとでの調査や実績データを出せるか出せないのかというのは、改めて確認させていただきたいと思います。
- ・資料 3 のピアサポーターの部分ですが、ピアサポーターの方だけが病院に行き支援をしていただくというわけではなく、私どもは事業者にも委託もさせていただき、そちらの支援者の方と同行し、ピアサポーターの方にも行っていただき、長期間病院に入っておられたのであれば、地域に戻られたとしても、やはり不安がおありでしょうから、そういった部分についてピアサポーターの方からご意見もいただき、地域に戻ってこられる際には、大野委員がおっしゃられますように、住まいのことや地域で実際に何ができるのかなど、何をお困りなのかということも含めて支援していくのが行政の責任だと思っております。

資料にはピアサポーターの方の活用のことを書いておりますが、ピアサポーターの方だけに何か責任を押し付け、後は勝手にやって下さいとの趣旨ではありません。あくまでも行政として責任を持ち、あと、住まい保証という部分までできるのかどうなのかというのは勿論ありますが、住まいを確保するための支援は当然行政としてはやっていくということでご理解いただければと思います。

大野委員

- ・もう一度お尋ねしますが、この文章の中に、今お答えいただきましたように、住まい、日中活動の場、その保証も十分していくということを表示していただかないといけません。
- ・やはり、行政の仕事は、まず暮らすということですので、住まい、それからそこで住めたとしても、今まで病棟で人間関係ができていたのに、その人間関係を切って地域に戻ってきて人間関係のない地域でただゴロゴロして寝て食べているという訳ではないと思います。
- ・こういうあたりも明確に表示していただかないと、精神障がい者の家族としては全く納得できません。

八木障がい福祉課長

- ・説明が不足しており大変申し訳なかったのですが、先ほど申し上げましたように、この支援計画には幅広い取組の方向性が記載されており、精神病院からの地域移行につきまして、詳細を別紙により記載しているところです。そして、資料3には総評としてまとめましたが、書ききれていなかったということで、その点についてお詫び申し上げます。
- ・別紙の詳細も読んでいただきながら、こんな取組を強化した方が良いなどのご意見をいただければと思います。
- ・精神病院からの退院の取組について、別紙53頁から57頁あたりまで細かく列挙させていただいています。この取組をまとめてご説明すべきものをこの総評に記載しましたが、うまく表現できなかったということで大変申し訳ありません。ご意見を十分理解しながら取り組んでいく所存ですので、ご理解いただければと思います。

三田部会長

- ・大野委員のおっしゃることで私もよくわかるのは、国もそうですが、ピアに押し付けるように何かと言えばピアサポーターって言うけれども、ピアサポーター側からしますと、たまったものではなく、支援者にこき使われ、負担・責任だけを負わされてというところに大阪市も乗って欲しくないなという想いを私はとても分かります。

倉田委員

- ・私はピアサポーターのボランティアとして入院中の方の訪問を行っており、現在はタブレ

ットを用いたオンライン面会を厚生労働省と共同で進められているところですが、ピアサポーター一人で病院の面会まで持つて行くのは難しい状況です。

- ・精神科病院との協力とおっしゃいましたが、端末まで用意しオンラインによるピア活動のサポートをピアサポーターの立場に立ち、本当にできるのでしょうか。
- ・あと、ピアサポーターは病院に行きますので交通費等の実質的に要する経費はピアサポーターの負担になりますので、その辺りの費用面の大阪市のサポートをどう考えておられるのかお聞かせいただきたい。

三田部会長

- ・ピアサポーターと書くのであればどの様に全体の絵を描くのかということのを、ぜひご検討いただき見せていただきたいということで、ご意見としていただきます。
- ・倉田委員のおっしゃられていることは本当に良く分かり、大阪市でも太刀打ち出来ない大きなところに向かっていくピアサポーターの大変さというのは、もの凄いなものがあると思います。

【資料3については修正する。】

井上委員

- ・この部会への報告方法の問題だと思います。
- ・この場で何を議論して欲しいのかということ定義していただかないと、これを見て、どうですか、よくやったでしょ。評価して下さいという提案なのか、こういうところに課題がありますが、次の改善策にあたってのご意見をいただきたいとか、そういう報告の仕方にしてもらわないと議論のしようもなく、何を発言して良いのかわかりません。
- ・市も何を求めるためにこの報告をしているのか、ここで認めてもらい良くやったねと言って欲しいために書いているのか、そうではなく、施策を進めるために我々は協力させていただいているので、そういう提起の仕方に切り換えて再提起していただき、議論していくようなことを考えていただかないと、個別のところでも私もいくつか意見もありますし、もう少し整理し直してもらわないと議論も進められないと思います。

八木障がい福祉課長

- ・計画の進捗状況の報告につきましては、これまでも、様々な手法を試させていただいておりますが、ご意見はごもっともだと思っております。

井上委員

- ・改善策を次に繋げるためにここに報告し、計画全体をどう進めるかというために我々は協力している訳で、改善策をどうしたら良いのかというところまで踏み込んだ提案をしてもらわないと我々も議論できません。

八木障がい福祉課長

- ・かしこまりました。

三田（優） 部会長

- ・報告事項の3つの項目について、事務局から説明をお願いします。

塩谷障がい福祉課長代理

<報告事項 資料6～8 説明>

三田（優） 部会長

- ・ご質問、ご意見いかがでしょうか。

井上委員

- ・生活のしづらさ調査と市の調査とダブるのではないのでしょうか。
- ・2つの調査票が来る可能性の方もおられるということでしょうか。

八木障がい福祉課長

- ・市内の地点が約26,000あるうちの141だけが選ばれるということで、その中に、例えば1地区100人おられた場合、14,000人ほどになりますが、これまでの経過ですと、大体6%位が調査の対象ではないかと言われていました。割と少ない人数が抽出されますので、その地区を基礎調査の対象から除外した方がいいのか、除外しない方がいいのか、どちらの意見もあると思いますので、悩ましいと思っています。
- ・調査票が両方届いた場合、混乱される懸念があります。
- ・生活のしづらさ調査は国から調査方法などを示されたところであり、どの地区が調査対象かもまだわかりませんので、状況により、またご相談させていただくかもしれません。

西委員

- ・さきほど、グループホームのことでお話がありましたが、グループホームの入所対象者は、どういう方でしょうか。

高田障がい支援課長代理

- ・基本は身体障がい者の方、知的障がい者の方、精神障がい者の方になります。

西委員

- ・もう一つお尋ねしますが、視覚障がい者が暮らすには、視覚障がい者用のルールがないと暮らしづらいということで、視覚障がい者用のグループホームというものを用意していただくことは出来るのでしょうか。

高田障がい支援課長代理

- ・現在、本市でグループホームとして指定するのは、さきほども申しました3障がいを原則として受け入れていただくということですが、実際には身体障がいや知的障がいだけのグループホームもございます。
- ・当然肢体不自由や聴覚障がい・視覚障がいの方それぞれに合った支援をしていただいていると我々としては思っています。
- ・そのため、事業所に対しては視覚障がいの方の専用のグループホームを作ってくださいというアナウンスはしていません。
- ・それに対する補助金というのも、原則3障がいのグループホーム、重度の方を受け入れていただくという整備補助を行っているところです。

西委員

- ・例えば肢体不自由の方であれば、お風呂はリフトが必要であるとか、障がいにとって必要なものはあると思います。
- ・例えば、視覚障がい者のことと言うと、点字ブロックは、視覚障がい者にとって一つのルールですが、一般の人にとっては、このルールがなかなか理解することができません。
- ・皆さんが思い出すとすぐに分かると思いますが、各所に敷設されている点字ブロックの上に自転車が置かれている、その上に人が立ち止まっている、荷物が置いてある状況をよく見ると思います。
- ・この状況は、視覚障がい者では絶対あり得ないことですが、そうでない人にとっては理解することは難しいと思います。
- ・その障がいに則したグループホームを建設していく方がより良い生活ができるのではないかと思いますのでご検討をお願いします。

高田障がい支援課長代理

- ・引き続き、障がいのある方が住みやすく、また利用しやすいグループホームの整備に向けて検討してまいります。

三田（優）部会長

- ・グループを運営する側が、例えば重度の方はお断りなど、より好みをしたり、色々な問題も出てきている中で、その障がいの特性に配慮した住まいづくりというのはまだまだ遅れているというような状況だと思います。

- ・市としては、様々な場面で啓発したりということだと思えますが、その問題はなかなか手をつけられないでいる状況もあるということは確かかなと思います。
- ・手を挙げている方もいらっしゃると思いますが、時間になってしまいましたので、恐らくさきほどの進捗状況がモヤモヤで終わっていて、進捗状況の報告は済みで良いのか事務局にと投げたままで終わりにしたいと思えます。

八木障がい福祉課長

<閉会のあいさつ>

- ・皆さん、長時間ご議論いただきましてどうもありがとうございます。
- ・まずは、資料が膨大で説明が長くなってしまったこととお詫び申し上げますとともに、進捗管理は何をどう表現するのかは、まだ今期の計画が始まったところで1年目になりますので、2年目の課題として預らせていただければと思っていますし、第2回の部会の際には何らかお示しも出来ればと思っています。
- ・本日はどうもありがとうございました。